

180130 石垣部会 名古屋市民オンブズマン作成メモ

傍聴者 10 人

10 : 00 開始

整備室長 岩本

西野所長：第 25 回石垣部会ありがとう。

昨年 10/13 全体整備検討会議出席頂いた

その中での発言・議事が混乱 お詫び

今後の活動の考え方 文書を頂いている

しっかりと受け止めさせて頂いている

昨年 10 月開始 文化庁、石垣 天守閣石垣調査

終了後現地調査を行う。

ご指導を

整備室長 岩本：北垣、赤羽、千田、宮武、洲さき

オブザーバーは欠席

事務局 教育委員会、魅力向上室、竹中、名古屋城総合事務所

報道は写真、ビデオを終了 移動をお願い

議事に入る前に、副座長の互選をお願い

北垣：副座長 赤羽先生よろしく

赤羽：うなずく

北垣：よろしく

整備室長 岩本：よろしいでしょうか

赤羽：よろしく 精一杯北垣先生らと頑張る

岩本整備室長：会議資料の確認

まずは「考え方」北垣座長から

北垣：石垣部会構成員としての今後の活動の考え方について

お手元に届いているでしょうね？

2ヶ月以上 部会の中止 至ったことについては、文面で申し上げているとおり。
中におきまして、私たちが搦め手馬出 石垣の整備について真摯に取り組んできたつも
り

石垣の安全性の確保についても、慎重にやらして頂いた

長時間かかっている 石垣部会の責任ではない

いろいろな名古屋市側の事情がある

しっかりやって参った

かなり広範な段階 十分な構造的なことについての状況もできあがっていない

我々が一つの責任としてやらして頂かないと行けない

以下のことについては、申し上げることはない

誠実にしっかりと文化財としての本質的な価値としての石垣をしっかり意義深いものに
したい

どうぞよろしく申し上げます。

岩本整備室長：ありがとう

ほかにあるか

北垣：いろいろな経緯があった

ぜひ先生方からご意見を頂戴したい

赤羽：先ほど西野所長から挨拶

1/17 づけ 「今後の方針について」

いくつかの問題点が なぜ石垣部会を中断しているのか

4つ見解

それに対する事務所の対応 回答があったようななかったような

訳がわからない

再開を決意した 重みがある。

それに至った中で事務局との意見 伺っておきたい

その点を踏まえてお答えを

私の言いたいことは西野所長の話

西野所長：1/17 に頂いた「活動方針」事務局の考え

5点

1 瀬口座長に対しての撤回と謝罪を引き続き求める

→事務局として、要請を受け止めて、瀬口座長にこれからも引き続き伝え、意思を

確認

- 2 搦め手馬出修復 軌道修正する
→先生方の指導を得て着実に修復を進めたい
- 3 文化庁記念物課 固まっていない調査 今後審議しない
→石垣を保全せよという観点、名古屋城全体整備観点
先生方にご審議をご審議したいことは相談
審議対象となることを審議
- 4 藩政期以前保存、安全に反するもの 旧城の回復を求める
→伝える 「審議対象でない」 ご報告する中で、ご提言いただけるものはいただき
たい
- 5 本丸北西 トレンチ調査 専門的見地 調査再開すること
→しっかり調査したい

赤羽：1番 瀬口座長 決して許しているわけではない

事務局として厳正に

3番 文化庁許可していない案件 審議対象としていない いろんな面で
わきまえて欲しい

宮武：おたずね 1/17「活動報告」皆さんの手元にあるのか？

少なくともここにはない 室長補佐にもないのか？

岩本室長：こちらの手違い あるので 申し訳ない

宮武：会議次第にある

名古屋市：配る（マスコミ、構成員）

傍聴者：（ここにはないとアピール）

名古屋市：傍聴者に配る

宮武：市政記者クラブに配った オープンにすべき

西野所長だけでなく、河村市長にだした

河村市長の代弁か？

西野所長：それで結構

宮武：4番目 藩政期以前

この事業 現状変更認めていないもの 当然この部会の対象にはあたらない

西野「場合によっては報告」詳しく答えて

西野所長：踏まえて進めさせて頂きたい

審議対象 されるものされないもの

文化庁が事業をとらえているか 各構成員がご判断頂けるもの

「なりません」 計画したもの 先生が例えば 4 番に当たるもの 指導、提言頂くありうる

そういう意味で言った

宮武：あげてくる、ということか

西野所長：できるだけ 審議対象でなくても報告させて頂いた方がよい？

不適切なものがあれば指導

宮武：議題にはあげるが、審議対象ではなく報告

部会で大もめになる前にあげてほしい

- ・特別史跡名古屋城跡の保存

- ・未解明を解明

- ・失われたものを回復

大変なダメージ 搦め手馬出の修理

文化庁 天守が出てきた

自動的に位置づけがどうか認識していない

会として審議対象かは別問題

喫緊 検討していく もう一回戻すと認識

真新しく出てきたものではない

前々回からやってきたものを再度確認した

この会に座らせて頂く

このような話し方「構成員としての」と会議次第

組織的な位置づけとして解釈してよいか

西野所長：うなづく

宮武：以上

千田：いろいろ話があった

部会の再開 所長から「受け止めて。市長も同じ」

資料 1 これまでしてきたこと 単に傷んでいるではない

どうして今大規模な解体をしないといけないか 原因を突き止める
何百年も先安定させるか 今知識・技術をして
どう伝えていくか

全体整備委員会 座長の方の発言が当たっていないか、不当、事実を反することは明らか

石垣部会 いかに安全担保できるか

その辺の石づみではない 国の国宝

議論させて頂いている 重い責務 安全安心はもちろん、文化財の価値 担保する

両立を図る 資料1 地盤に起因する 軟弱

変動を防ぐ

「コンクリートで固める」乱暴ではなく、伝統 積み直しに入ろう

これまで石垣部会が議論してきたこと

安心安全、未来に向かって

実際の実務を実行して議論してきた

名古屋城総合事務所 一緒にしてきた

全体整備計画 座長発言 いずれに真実があるのかわからない

危惧をしている

「再開に当たって」意思表示 最初の議題 大きなところ

部会記者の方 冒頭の撮影 これほどカメラが入る部会ない

市民の傍聴もたくさん

再開前の昨年部会 繰り返し申した

石垣部会は名古屋城本質的価値をもっている石垣の現状把握、適切な修理

本丸搦め手石垣 天守台根石

名古屋城全体の石垣カルテ この部会で議論してきた

それ以上でもそれ以下でもない

報道でしばしば見かけて心を痛めている

「石垣調査が木造天守閣の露払い」であるかのよう ほぼほとんどそう

間違った報道

文化庁の指導 保全・修理

文化庁でオーソライズされていない、現状変更されていないことの議論

法に反する 以前も議論していない

一切議論していない

なかなか取材してもらっている記者に理解されていない

国の特別史跡 文化庁が文化財保護法が権限

名古屋市が木造復元すると市長・議会が決めても、史跡の整備ができるかは関係がない

文化庁の文化財保護課 復元検討委員会 木造復元は1秒も審議していない

「決まっている、決定されたこと」いろんな報道
石垣部会すべきだ、というのは前提として間違っている
しかも、変更するためには、文化庁が定めた文化財保護法
前提として、「保存活用計画」でオーソライズされている
はじめて文化庁としてテーブルに載る。前提
名古屋市がしていることは、委員の手元に「案」がある
文化庁が決定して、文化財高めるためには、「鉄筋天守の耐震補強がだめで、
木造復元が不可欠である」文化庁がオーソライズして、
木造復元には何が必要で、適切かどうか議論される
本来の文化財の価値は石垣にある しっかり保全されているか
名古屋市が進めている方法 法的な適切な手順をとらずに
市として独自に議論している
木造議論に文化庁は1度も出席していない 文化庁はあずかり知らないこと
前提、法が違う 取材していらっしゃる皆さんには報道してほしい
なぜ石垣部会が部会を中断したのか
なぜ方針をしつこく言っているのか 十分ご理解頂けていないのではないかと
名古屋市 当然石垣部会の立ち位置 ご理解頂いていると思う
これまで個人の感想 部会に対しての説明と、記者の皆さんと
大きな齟齬があったのではないかと気がしている
この部会としては、石垣の保全
市 石垣調査と木造復元と直結しているような説明がなかったか
ぜひ襟を正して欲しい
もし仮にあったら、今後正して欲しい 感想なので誤っているかもしれない

10 : 39

岩本整備室長：ありがとう

北垣座長に一任

北垣：石垣部会として今後の考え方 それぞれ委員から聞いて頂いた
議事 本丸搦め手石垣工事計画案

名古屋城 石澤：資料1

平成16年度から継続 解体修理

昨年度 地盤に弱点 枠工法補強工事

今年度修復 平成29年度 全面工事

昨年度は全てはできなかった 続き

動態観測 継続

主な工事 杵工 図1 ピンク 今年度補強 続きをする

仕様 昨年と同様 図2 模式図

杭をぬきでつないで、捨て石 地盤の補強

杭 4メートル

杵工法 掘削伴う 文化財調査

断面 捨て石 多少掘削が必要

現状石垣 捨て石が施されている

だいたいの記録はとっている

捨て石の記録 動かさない 現状のままおいて取り込む

図3 調査範囲 杵工施工範囲

昨年度工事 石垣工事 根切り調査

北垣：ありがとう

目的、昨年度の杵工のこと

伝統技術のこと 江戸の段階 主要な遺跡ではつかっている

今回採用した

上の方 動態観測 石垣変移確認継続

2の方 現状の捨て石を動かさないでやる

どうぞよろしく

名古屋城 石沢：写真がある

杭を打設した 抜きを施工

捨て石をほどこした

実際は水が上がる 水面下に落ちる

普通なら見えない

宮武：図の2 模式図

レベル プラス4

下 ちょっとした段差 ずれですよ

ここですかね 隠れている

4 標準設計よりずれ

慶長期だけでなく、前に捨てられている捨て石 締め込む利点

復元していく 腰回り自体も抑える

安全性について十分配慮されていると思う

千田：29年度修復工事

大天守台根石と平行して行うのか

名古屋城：そのように考えている

千田：大天守台根石調査 文化庁を含めて調査体制が万全か 懸念が示された

石垣部会としても不十分と指摘

名古屋城は国の特別史跡 もっとも高く評価されている

文化財を委託で行うのは見たことがない

名古屋市さんは特別史跡調査を委託で行ってきた

それについて文化庁「適切とは言えない」

両方変更 学芸員増員体制 担保されているので2現場 調査、修理活動でよいか

名古屋城村木：調査研究体制

充実に努めている 私は11月からこちらにきた

天守台 教育委員会の協力

搦め手馬出 市沢と私が担当 充実に努めている

今年度はこれで

千田：大天守発掘届け 市沢さんではないか

記憶がない 文化庁に提出した書類とのずれはないか？

名古屋城村木：現状変更は市沢 適切にする

千田：調査担当を変更するのか

名古屋城村木：実態にそぐう形にする

千田：そんなことはできるのか？

限られた学芸員 重要 兼務の体制と聞こえた

文化庁現状変更許可 発掘調査の届けと実際がずれがある きれいなことではない

そのあたりをどうかんがえるか

「将来的に充実させる」2つの現場 この調査をする

修理体制を充実させなければ体制が担保されていない

「今後務めます」では不十分

西野所長：少しずつ調査体制を充実させている
教育委員会から人員を派遣して頂いている
文化庁に報告した上でご相談していく

赤羽：調査人員は大きな問題 しっかりやって
その前に、搦め手工事 工期が迫っている 今1月末
事前に調査をし、枠組み施行 本当に年度内に可能か？
大丈夫か？

名古屋城 石沢：昨年度実績から割り出して大丈夫と考える

宮武：やっちゃんから体制の変更がない。
無理にやるから人員増員がない
西野所長から聞きたい 2ヶ月中断 我々に情報がきた
「熊本城、金沢城 別部署を作っていきたい方針」本筋か？

西野所長：今後調査研究体制 ご指摘いただいたように、先生方の保全 名古屋城体制
貧弱であるという指摘 内部で検討
熊本城、金沢城を手本 調査研究組織を作っていくべき 方針
先の経済水道委員会で申し上げた
来年度予算の関係 具体的には言えないが、さらに充実に努めたい
そういう体制 準備に持って行きたい

宮武：そういう方針はある
教育委員会だけでは判断できない
名古屋市全体 人事枠をいじらないと行けない
市長部局 責任ある人
事務所として方針をもっていることを確認したい

11:02

北垣：天守台の問題にもかかってくる、
学芸員、囑託 大変なこと
議事の1つめ 本丸搦め手石垣 工事計画案 これを進めていっていいか
ありがとうございます。
核心のところ 本質的価値 天守台はどのような意味を持っているか
いよいよ

石垣周辺調査についてご説明を頂いてからの方がよいか、
学芸員、嘱託 予想される
総合事務所として工程上必要な、実施できることをやってきた
実はちょっと問題 絡んでくること
ちょっと提案 まだ皆さん方に提起できるものではない
我々の考え方 そういうことに基づいて うまくいかない
名古屋城天守台 説明頂く前に話したい
特別史跡 天守台石垣 文化財調査
学芸員、嘱託 まず1つ大きな考え方 総合事務所の方で基本方針
文化財調査に対する基本方針 どういったものがあるのか
ざっとお話ししますが、きちっとまとめて基本方針 何をすべきか
聞いて下さい
本質的価値を構成する枢要な遺構を石垣に置いている
確実な保存は史跡保護の大前提、という位置づけ
今後の史跡活用 当たっても、石垣の本質的な価値に影響を与えない
整備全体についても前提条件になってくる
対象 石垣遺構保全 トレンチも含め、顕在化 実体化
現状具体的に把握し、資料化する
そういう過程が非常に大切になる 不可欠
そんな中で、整備における文化財調査
保存目的の行為 学術調査と目的が違うのではないか
学術調査が目的ではなく、保存が目的
トレンチ 掘っただけ どう考えていくか
天守台の価値 トレンチ調査 保存のためにどうしたらよいか
例えば調査の方法 学術研究目的 共通するところがある
保存目的ならでの調査 2つ
共有できるもの 保存・学術 入ってくるもの
石垣の構築技術 勾配 大きな問題 石材、加工
施行方法 名古屋城がどのようにして今日に至っているか修築歴
独自 石垣がどのように変形してきたか 可視化
動態観測 石垣が変化してきたか 安定性解析技術
独自で考えていかないと行けない
調査というのは、保存目的、脈絡、関係性 明確性 実施しないと行けない
名古屋市が作られた全体計画に則って調査をやる際の取り組み方をどうするか
簡単に1つの実態を把握するだけでは学術調査と違う
保存目的を明確化する

なんのために何をするのか

保存とどう関係するのか きちんと整理すべき

今度のトレンチ調査 議論はしていないが、名古屋市としての文化財としての保存調査
どうすべきか

大事なところに立っている

調査全体計画を立てて、目的に応じた調査をすべき

ざるでうけたようなようで「わかりました」ではない

目的を細かく絞って、本当の天守台の良さと課題を明らかに

いままで全国でやられた例があまりない

千田先生も言ったように、特別の史跡

村、町、市、県、国 頂点に立っている

学芸員の数 念頭にいれて考えて欲しい

細かいことは現場で考えていかないと行けない

石垣部会が再開 調査方針 あらためて確認

名古屋市には埋蔵文化財の学芸員がいる

名古屋市と総合事務所が一体化

そういう中で一つの方向性に従って各該当する目的の課題を一つずつ計画

原案を出して頂きたい

そういう原案のものをあらためて専門的な観点から助言させて頂く

保存を主体とした文化財石垣 基本的なスタンスを名古屋市として確立して欲しい

そのあたりを内部で検討する中で、今日の話を次の天守台石垣

事務局から

11 : 15

名古屋城総合事務所：資料 2-1 左側 測量、現況調査石垣の場所

2-3 ページ オルソ画像、立面図

平面図

追加資料 A3 3枚 追加資料 縦断面図、横断面図 石はじ

資料掲載 一部石垣 現段階作成ご用意

石垣現況調査 石垣カルテ 割れ、石材、はらみだし

資料 2-1 最後のページ

石目のライン 赤線 丸1 宝暦 丸2 現天守閣再建時積み直し

天守台周辺部 発掘調査

資料 2-1 4 ページ

発掘調査位置 天守台西側 G I、K、L、M 調査

K調査区 埋戻ししている

詳細は午後の現地視察 簡単に説明

4 ページ右側 I 地点 東西長くトレンチ

根石の荷担 堀込みを確認

続いて資料 5 ページ K 調査区 トレンチ 段堀で

地表面から 1.6 メートル レキを確認

5 ページ右 L 調査区 調査区西側 レキ密集

調査区東壁際 サブトレンチ 掘り下げ

資料 6 ページ目 左側 M 調査区 石垣 南壁 現地

6 ページ右上 N 調査区

6 ページ目右下 G 調査区 内堀東西横断

石垣調査 部分的に進めている

ボーリング調査について 資料 2-2

1 ページ目 ボーリング調査 位置図

1 ページ目 調査地点の内、1-5, 8-10 終了

各調査地点のちゅうぞう図を示した N 値

地層構成表 盛り土 熱田台地 上部、下部

ボーリング調査については、丸 2, 4, 6 土質地点 2.4 は終了

2 ページ 土質試験結果

資料 4 ページ 今回調査結果

大天守、小天守 緑部分 A-A' B-B' C-C'

暫定版 熱田層上部、下部 おおむね水平状況

天守台石垣周辺調査 報告

現況把握するため 断裁図

穴蔵図平面図等

石垣カルテ

3 次元点群調査、レーダー探査予定

11 : 29

北垣：ありがとう

いわゆる文化財調査の前の、基礎的調査と言うことですね それでよいか

名古屋城：石垣の現況を把握するための調査

宮武：今日出して頂いたのは、できたものだけ？

北側中心 石垣カルテの状況か、天守台横断図か

てんこ盛り 何の資料を

名古屋城 資料 2-1 赤いところ

測量とカルテ

測量 大天守北側

他の面も作成中 北面を一例 他にも手元にある

宮武：そろっているものは、全部出して。

片面だけだされてもわからない

天守台のための

必要なデータがどれか

名古屋城：現状把握途上

統一的な図面を出した 現状の調査 図面が適正か

図面の表現、カルテをご審議

宮武：カルテはカルテ、天守台は天守台、トレンチはトレンチ わけてほしい

断裁図付けたら混乱する

一番後ろ カラー 近代と宝暦 2種類だけでよいのか

ごちゃごちゃ 大変な問題点が出ている

黄色スクリーントーン はらみだし

慶長も宝暦も同時にはらんでいる どう考えているのか

むりやりすりつけているのか

反対面は作業としてできていないのか

データはこれからつくるのか

名古屋城：そう

宮武：全体としてみないといけない

ボーリング調査結果 概要版 凡例の確認

資料 2-2 配所 2メートル ブルーの線

第一年制度 天守台の真下 どういう正確か

名古屋城：A-A' ライン 各地点ボーリング調査 同一 暫定版

どう評価するのか 今後の課題

宮武：は？なぜ出した？

そちらの見解が聞きたい
堀の底部より上に走っている 業者に任せている
調査側がわからなければとんでもない

名古屋城：、、、

宮武：東京ソイルリサーチ いない？
竹中の孫請け？成果品 担当として聞いていないのか？
柱状図だけもらって部会に出しているのか？

名古屋城：十分に把握していない

宮武：そういうこと。ぎやあぎやあいつている 水が通っているのか
厚み1メートル 水が通っています
石垣立面
出てきたもの「これからの課題」びっくりした
邪魔していない 石垣 郭 悪影響を出していないのか
地盤工学 見地も必要
西田アドバイザーには見てもらっているのか

名古屋城：西田先生には見せた
暫定版として不十分なものをだした

宮武：現段階での西田先生の見解は

名古屋城：具体的な指摘は受けていない

宮武：「出てきたデータの解析はこれからです」時間の無駄
実施した瞬間のN値 強いが強くないか
外部的変化 数百年 戦いの中である
はらみ、劣化進んでいる
しっかり解析指定いただかないと、とんでもないことになる
次回部会でご説明頂けるものと考えている
発掘調査で話をしたい

千田：宮武先生から指摘 ポーリングD3U-C1 気になる

黄色い色 断面で見ると、石垣 大規模変形
水を通す層 常に背後から水が供給される 例えば指摘できる
石垣健全性、押さえていくか ボーリング調査でわかったこと
慎重に対策しないと
今まだ調査 個々の土 どういう性格を持っているか
部会にデータ出して頂ければ
大学のゼミ発表ではないが、資料の 2-1.2.3 大番号
ページが付いているところと付いてないところ
レジュメの作り方としてはよいものではない
名古屋城総合事務所でどう仕事をしているのか 推測が付く
ちゃんとした 通常は形式 文献に関わるもの 発掘 様式がそろっているもの
議論をするもの 資料を作る 最低レベルに達している
恥ずかしいと感じて欲しい
2-1 発掘データ 「議論しよう」まったく見えない
レベルの数字 ぼけて見えない
何を議論するのか
会議に出す前に所長以下見て、チェックをして提示して頂きたい
「ちゃんと議論したでしょう」見えない、なにも
議論した 議事録ではそうなるかもしれないが、議論できない

赤羽：中断中に養生したのが気になる

千田先生指摘 各トレンチ 断面図、解説 文章が出ていないのが
現地を見ているからさっしは付くが、丁寧な資料作り
心がけて頂きたい

北垣：結局、第1回再開初日としては、満足している状況ではない

質問ができない

私もきちんとしたメモとして提案します。

例えば資料 2-1 これは公園の側からはわかる

文化財として、なにをこれから検討していくのか

名古屋城の学芸員として重い役割 担っていかないと行けない

一人でやっていくという話ではない

目的に応じてクリアしていく やっていかないと間に合わない 危機感

お昼からはトレンチ 現場で意見が出る

一つこういう見方をして頂きたい

後ろから3枚目 どう考えるか

慶長、宝暦の石餓鬼があると言われている
どう確認するか 特定する
宮武先生図面 実はそうなるための基礎的なものが入っている
慶長遺構範囲、特徴、文化、つき石部
慶長の顕著な部分 遺構が劣化によって影響を与えているのかいないのか
右手 宝暦ではないか 本当に宝暦か確認する必要がある
算木積み 天守台支えておれるのか
この図面から考え方として
構造、はらみだし、石と石の間の圧壊、せり出し
個々の問題 考えていかないと行けない
なにがどう石垣が保っているのか
次 石垣の縦断図 極めて重要 宮武先生が答えを出した
重要なことが詰まっている
慶長の段階 下の当たり 変形している
変形の図面でみると、うまく応じている 横断図
ぱっと見たときにわかっていただかないといけない
そうしたときに最終的なページ きれいな図面のような課題
まだまだ課題になっていない
1枚1枚 もっと見ないと行けない
次回以降、一つ一つ出してもらいたい
検討できるような資料をだしてほしい
2ヶ月中断 資料を出された 紹介だったと思っている
そういったことで学芸員 1人や2人でできることではない
どのような作業をして頂けるのか期待している
時間ちょうど12時頃になってきた
報告がある
トイレも気になる
5番 報告 事務局

11:56

名古屋市 こうろ：保存活用計画

保存・活用・整備・運用体制

方針を示す

計画については、全体整備検討会議 全7回 検討

3月策定 検討

資料3 抜粋した

- 1 ページ 9 ページ 6 保存
各地区の保存管理状況 現状
97 ページ 石垣・土塁・内堀 田野地区も書いてある
103 ページ 現状 指定地石垣概要、履歴
105 ページ 位置図
134 ページ 活用の現状 失われた石垣・土塁・堀 地区ごと
168 ページ 保存について 管理方法 石垣カルテなど
186 ページ 活用方針 失われた石垣 考え方
187 ページ 発掘調査や史資料調査
復元の可否 慎重な検討
220 ページ 整備方針 保存方針を受ける
本丸搦め手石垣後、危険なところから修復
221 ページ 改変されたところは、復元整備の可否についても慎重検討
228 ページ 重点的な取り組み
229 ページ 石餓鬼について重点的な取り組み
230 ページ 石餓鬼調査 整備 調査体制を記載

12 : 05

北垣：この部分が重要である 共通認識
この点 委員の先生 どうぞよろしく

宮武：中断 親委員会でも話したが、石垣部会に出てきたのはこれが最初
審議ではない どう反映されるのか

名古屋市：事務局として受け止めて検討

宮武：具体的に反映するのか

名古屋市：頂いたご意見 検討して状況に応じて石垣部会に報告

宮武：事務局でふるいをかける
反映されるのか

西野所長：事務局で受け止める
全体整備検討会議 ご意見を頂いている
お話をした上でまとめる

先生方から頂いた話を検討

宮武：実績として使われるのが恐れる

検討会議の座長は瀬口先生

「石垣部会は安全性に配慮していない」というかもしれない
できあがった部分については説明頂きたい

千田：報告事項にするのは承服しかねる

ぶらさがりの部会

石垣部会 報告事項

それが全体整備検討会議 議論として担保されていない状況

保存活用計画 できるというのはなんのための会議か？

根本が問われる

報告議題 名古屋市の考えに納得いかない

石垣部会が再開する必要がない

ここしかない その議論が全体の整備活用計画に反映されるのは当然

北垣：保存活用計画案について、やはり今からでも議題の中に入れて、

石垣部会としての意見を反映するのは難しいのか

西野所長：今まで、適切だったかはそうだが、そのものでおはかりしながらまとめてきた

10月会議 石垣部会としての意見を

議題というものがしづらい面があった

今回報告で出した

意見はできるだけ反映できるようにしたい

千田：いやがらせをしているわけではない

部会で示されたのは今回が初めて

審議するのはあたりまえ

石垣部会の議論 保存活用計画 末永い名古屋城 保存・活用

まさに憲法になる

適切に編纂されない このことを議論しても、憲法が間違っていると間違う

どう考えても保存活用親委員会が議論するのはあたりまえ

石垣部会が検討して、全体をまとめるのが当然

全国の会議からみて非常におかしい 特異なこと

今年度のうちにまとめると仄聞している

石垣部会に示されてこなかったのはおかしい 何を恐れているのか
筋道がおかしい あらためるべきではないか

名古屋城：今回今日お示した保存活用計画
石垣 保存方針を定める
そこにも反映させて頂くと考えている

西野所長：やり方が間違っていたのではないかというご指摘をいただいた
親会議で作っていく 文化庁調査官にも来て頂いた
経緯の中で、ご指摘頂いた 「石垣部会の意見が反映されないのはおかしい」
踏まえた上で報告して、意見は受け止める
全体整備検討会議の先生に話す
今の段階でやれるのはこれ
ご意見を賜りたい

宮武：残り2ヶ月 生じてしまっている
今回はじめて部会で公開された
策定されている過程 何回も議論重ねた
7回 一度も部会に入ってこなかった
「こういうことを話をしている」進言もできた
今「さあ意見を述べよ」 意見が反映されるのか？
物理的にできるのか？

西野所長：今年度中に作るという目標
残された時間の中で精一杯やりたい

北垣：今日の会議で、親会議でされてきたこと
石垣部会 初めての提案 これからの文化財行政
本質的な価値 議論していかないと行けない 石垣
まったく関与していない これでは非常に異様な状態
それは今の法律として考えていこうとすると大変
本当に2ヶ月 超法規的 石垣部会が少なくともしっかり受け止めている
どこかで出して頂かないと困ったことだと思う
何らかの形を文言に加える、可能かわからないが、もう一工夫して頂きたい
申し上げようがない

宮武：むくれている

このままいったら石垣修理は頓挫します

絶対立ち往生します

矛盾がいっぱいある

泥沼に入る

例えば、97 ページ 抜粋 本質的価値 検討する

親 63 ページ 近代に形成された諸要素

97 ページには入っていない 近代の石垣はどうなったのか？

63 ページ 公開になるんですね

名古屋城一番 乃木倉庫など近代を対象に

97 ページ 近代はなく近世

石垣矛盾している

抜粋 187 ページ 赤枠 10 行目 復元時代は江戸時代後期を基本としつつ

石垣 下から 5 行目 「可否について慎重な検討」 どっちにするのか

近代の石垣に、江戸後期の建物を建てるのか？

書き方で矛盾

間違いなく頓挫する 134 ページ 失われた石垣・土塁 天守台が書いていない

どう考えているのか

損壊していない 江戸末期と変わっていない 鉄筋鉄骨コンクリート作ったときも改変していない

絶対手を触れていない

天守台が書かれていない

調査するのか整備するのか、いつの時代にするのか

どれを残すのか矛盾している

残り 2 ヶ月 「受け止め検討」どうするのか

おおざっぱな話でもそう。細かい話だともっと。

石垣部会として「右から左」目を通したことはいえない

北垣：極めて重要な問題、課題がでてきた

石垣部会委員 話をどのように理解されていくか

理解しないと持たない

ここはあらためて何らかの方針を書いて頂かないとどうしようもない

結論をとともだせるようなものではない

可及的速やかにそういうことを

石垣部会の再開の日 次の部会 どのような形で行われるのか

我々が行いたい意思はある そういった憲法に該当する取扱 きっちり整理しないと行

けない

都合が悪いのではないか

千田：97 ページ 諸要素 区分が間違っている 城がわかっていない

用語 恥ずかしい レベルに達していない

2ヶ月でまとめないといけないのにこうなのか

部会に下ろして議論していないから

どうしようもない

本市仮とじ 個々の図面のスケール 出し方すらだめ

図面がオリジナルではない ばかり 引用の図面

いったいどういように学芸員が関わっているのか

業者に丸投げで、右から左へ

たくさんの学芸員 チェックしているのか

仮とじのものであっても、「こんなものを出してきて」

私も元名古屋市の学芸員 悲しいものがある

中身はひどい 全国からみてもひどい

石垣 落ちている

どうにもならない

議題として部会でやるしかない

これは年度末 結構だが、これでは出したが、「保存活用計画としては不備」やり直しを命じられる

懸念される

あらためてご理解して頂いてご判断を

宮武：とんでもない判断 行政上0にはできない

これに縛られる

大矛盾 混乱を起こす

城跡、地べた 後付けするしかない

3月末まで間に合わなければ次年度

憲法の下に詳しい細則

「郭」概念がない基本計画 初めて見た

別途、補佐的な手立て

親の憲法 どうするか

このまま 運用する心配 かなり大変になる

名古屋市：宮武先生 別立てのもの

議論が尽くされていない

石垣等については、保全方針を別途作るという方針

北垣：用語で間違い だめ

直して頂きたい

千田：公式の会議「議論が尽くされていない」

だめといちちゃった

名古屋市：付加するものとして保全方針を作りたい

千田：残り2ヶ月では無理

およそひどい内容 どうにもならない

一応専門家 いやがらせしているわけではない

議論して作らないと、実際の活用 動けなくなる

間違ったもの この状況のものを作っちゃった

名古屋市がその道に進む 止めない、しかたない

十分ご理解した上で賢明な判断を

これができたからといってなんともならない

北垣：ここまできた 認めてもらわないといけない

それなりの対策を取らないと行けない

申し上げることはなんぼでもでてくる

行政としてしっかり考えて頂きたい

善処して頂きたい

今日のいろいろなこと これでだいたいよいか

報告事項 できたということではない

赤羽：「私たちはこれを認めない」はっきり言ってほしい

1年ほど練ってほしい

このままでは恥ずかしいこと 文化庁も許可をださない

しっかり考えて

今日の議事録 「石垣部会は認めない」言うておくべきだ

北垣：石垣部会としては、解決の糸口がつかめていない

認めるわけには行かない

赤羽先生言われるように、時間が忙しい
なんとか方法を講じて、石垣部会 これだけはきちんと出したい
認められない

西野所長：今日の報告事項
「石垣部会としては認めない」受け止めさせて頂く
進め方 今日の意見を踏まえて、一度考える

西垣：議題は終わった
その他

名古屋城：ありがとう
本日意見はたくさん 進めていく
今後ともご指導
次回開催日 おって連絡
以上で石垣部会終了
会場が1時しか借りていない